



Biz Com

[ビズコム : Vol.38]

<http://www.rikkyo.ac.jp/sindaigakuin/bizsite/bizcom/index.html>


Business Simulation

今回のBizComは、ビジネスデザイン研究科の授業の核となる「ビジネスシミュレーション」特集号です。このカリキュラムは必修科目であり、9期生全員が4クラスに分かれ、さらに3~5人編成のチームの中で役割分担し、仮想法人を運営していく授業です。今回のテーマは「ハンバーガー製造業」。このビジネスゲームに挑んでいる9期生の顔ぶれを、各々のチームの社是・社訓などと併せてご紹介いたします。また、ビジネスプランとは、今年からスタートした新しい必修授業で、ビジネスゲームに続き、チーム全員で新規事業のプランを創造していきます。

Biz Com Interview

授業を担当していただいている4教授に、ビジネスシミュレーションについて個別にお話を伺いました。

- 1 ビジネスシミュレーションで「学びとって欲しいこと」「シミュレーションの狙い」そして「MBAを目指す院生に期待していること」とは何でしょうか？
- 2 ビジネスプランで院生に期待していることとは何でしょうか。
- 3 院生に対するメッセージをお願いします。

沖本 美幸 先生のコメント



- 1 論理的思考のフレームワークを構築し、事象の全体を正しく把握することを心掛けて欲しい。それにより、収集すべきデータが明確になる。そのうえで、ロジックツリー、MECE、4P、7S等の手法を理解し利用することが重要である。手法に振り回されては本末転倒である。組織のミッション、戦略、ベクトルの重要性を認識し、目的の達成への工程表も作成できるようにすることを期待している。
- 2 論理的思考方法の習得、コミュニケーションの重要性を認識してほしい。ビジネスを考える際に、学際的な知識を持ち、歴史的な背景を理解し、新ビジネスが、既存のビジネスの派生なのかブルーオーシャンかを考え儲けや競争優位の仕組みをどうするか、顧客への提供のしきみをどうするかをしっかりと考えて実社会で活用してほしい。
- 3 コミュニケーション力が不足している気がする。日常会話ではなく、本当に意味のあるコミュニケーションをしているかを考える必要がある。コミュニケーションの基本は、聞く力だと考える。相手の主張をしっかりと理解できるとともに、相手の潜在能力を引き出す質問力をつけて欲しい。また、議論の前にちゃんと論点を明確にしておく等、ぜひ実社会で生きていけるノウハウを確立して欲しい。

山中 伸彦 先生のコメント



- 1 経営的意思決定の経験的学習をして欲しい。具体的には、チームによる意思決定や、与えられた情報と結果を分析、整理するとともに、取り巻く環境変化を認識できる力を養って欲しい。そのうえで、妥当かつ合理的な意思決定をし、それを評価、実行する力を身につけて欲しい。このビジネスシミュレーションを通じて、意思決定のプロセスを経験として学び、実際の社会で不確実性に直面したときも、具体的に集合的な意思決定ができる人材になって欲しい。
- 2 ビジネスプランは、クリエイティブな意思決定を求めるものである。「分析」と「合理的」とは異なるものなので、このビジネスプランを通じて具体

的な創造という「状況」を実感して欲しい。また、バックグラウンドの異なるメンバー（チーム）による議論により、自らの固定概念（視点）を払拭し、異なるものを得て、さらには新しいものを創り上げるプロセスを学んで欲しい。

- 3 将来、事業構想を担う役割になって欲しい。RBSで学んだ知識を糧に起業するなど、新しい何かを生み出す行動をして欲しい。

宮下 篤志 先生のコメント



- 1 ゼネラリストとしての考え方を固めてほしい。個々のスキルをつなぐシナプスがシミュレーションの授業です。論理性を高め、情熱を持つこと。「仮説に論理性を持って、どう結果を出すか。そしてそれを振り返る。これがすごく勉強になると思う」実際のビジネスとゲームは大きく違う。現実の社会で使えることはせいぜい20%位ではないか。
- 2 熱心さや想像力に加え、論理性に基づいて分析する力が必要。自分たちは何をやりたいか。ビジネスプランをやりたい人はフレームワークを気にするがバランスよく力をつけることが重要。
- 3 MBAというのは左脳派が多い。左脳だけでなく右脳も活用して欲しい。経営というのは、論理性と実践と直感の融合であることを学んでいただきたい。経営というのはアートの部分とサイエンス、クラフト(実践)の融合でもある。楽しんでください。二度とないこの時間を楽しんでください。

青淵 正幸 先生のコメント



- 1 有限の世界の中で、その結果が数字に反映されるということの体験を通じて、我々は常に評価されているということを学びとってほしい。そして、その制限の中で行う意思決定の大変さと、決定がすぐに数値に表れることにおけるフローを学び、さらに、その結果、どこにずれが潜んでいるかをレビューすることによって、さまざまなことを学びとってほしい。
- 2 世の中の多くの事象に対して、「なぜ?」という問いを持ってほしい。あたりまえを、あたりまえだと信じ込んで行動している毎日に対し「問い」かけてほしい。なぜ?という問いから、さまざまなことが生まれる。日常生活のあたりまえに疑問を持ってほしい。そうすることによって、今日よりも明日、より成長できる。いろんな「なぜ?」に問いかけることによって、今日よりも明日、大きくなるために。
- 3 仕事と家庭に研究活動が加わり、時間に追われる日々の中で毎週の課題をこなしていかなければならないビジネスシミュレーション。半年が経過してこの授業が終了したとき、ちょっとの時間でよいかからこの授業がビジネスデザイン研究科唯一の必修科目である理由、研究科が皆さんに求めていたことは何であったのかを自身で考えて欲しい。その解の中に、きっとあなた自身が気づかぬうちに修得した「成長」があるにちがいない。それを糧にして修士研究に邁進されることを期待している。